

1. 震災・復興とリスクマネジメント (○)
2. 国際都市神戸と世界の文化 ( )
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協力へ ( )
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸 ( )
5. その他 ( )

[概要]

## SGH 第3年次報告会・宮城県多賀城高等学校との交流会・神戸フィールドワーク

### 1. テーマ

「震災・復興とリスクマネジメント」震災 (Disaster)・復興 (Reconstruction)・減災 (Reduction)・レジリエンス (Resilience) をテーマとした DR3 プロジェクト

### 2. 目的

被災地間の学校交流を通して、大規模震災に対するリスクマネジメントについて多角的な視点から学ぶ。特に以下4点を重視する。

- ① 身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう地震災害について学ぶ。
- ② どのような減災教育を行えるか考える。
- ③ 人文科学・自然科学の両面から震災を捉え、理解する。
- ④ 上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を共に目指すことを主たる目的とする。

### 3. 内容

2月10日(土)	2月11日
1. SGH 国内活動・交流活動発表 2. 多賀城高校の生徒と交流 多賀城高校と減災教育ゲーム開発 3. 立命館大学・塩崎教授から震災復興についての講義	1. 多賀城高校の生徒と神戸の街歩き ・東遊園地→神戸港震災メモリアルパーク→南京町→HAT 神戸→人と防災未来センター(坪井研究員による講義)

### 4. 活動の様子



SGH 報告会：合同発表の様子



両校交流：減災アクションカードゲーム



両校による減災教育ゲーム開発



神戸街歩き：東遊園地



神戸街歩き：神戸港震災メモリアルパーク



神戸街歩き：BE KOBE



神戸街歩き：南京町



神戸街歩き：HAT 神戸



神戸街歩き：人と防災未来センター

#### 4. 参加生徒の所感

- ・多賀城高校の生徒の方と昨年夏から取り掛かっていた新しい減災教育ゲーム開発を大幅に進めることができたので、大変貴重な機会になりました。今回は、多くの生徒が開発に携わることができ、今年度の目標であった DR3 プロジェクトとして新しいことにも挑戦するということを1つ達成できたのではないかと思います。今後、宮城と神戸それぞれの地域において実践していきたいです。(5年)
- ・SGH 報告会合同発表では、本校生徒と来校者で円を作り、「国内活動の参加に意味があるのか」について、自身の抱く考えを発信することが出来ました。また、多賀城高校の生徒と交流を行うことで、互いに「宮城」と「神戸」の視点から減災について話し合うことが出来ました。お互いの視点から発信した経験は、今後の活動等で大きく活かされると感じています。(5年)
- ・街歩きをすることで神戸の街を他の県の人に伝えるという貴重な機会を得られました。その街のことを詳しく知らない人に伝えるには自分自身も確かな情報を持っておかなければいけないので事前に下調べをして今まで以上の知識を得られました。普段住んでいる神戸ですが、たくさん歩き、改めて神戸の街らしさを見たり、感じられたりしました。(4年)
- ・街歩きをすることで、自分がいかに神戸の事を知らないかを思い知りました。また、神戸について調べることで阪神淡路大震災についての知識を得ることができました。人と防災未来センターで講義を受けることで、震災のデータに基づいた事実を知り、より知識を増やすことができました。同時に、新たな疑問をもつきっかけとなりました。(5年)
- ・今回の街歩きを通して、神戸の復興力の偉大さを感じることができました。しかしその一方で、自分の震災に関する知識や神戸の街についてなど、知らないことがたくさんあるということに気づかされました。神戸に住む者として、もっともっと阪神淡路大震災について学び、それを次の世代に伝えていけるようにしていきたいです。(4年)